

コロナ禍の生活という人類に課せられた大きな課題。医療崩壊を起さず、死ななくて済む共存の知恵を得ること。

上質のカシミアは、外出着はもちろんですが、お家でゆったり過ごすのにも最高のアイテムですね。

この秋、UTOのカシミアにホームカテゴリーが登場しました。最高級カシミアニットのふわふわ掛けをはじめ、レッグウォーマー、手袋、ゆったりパンツ、マスク等です。どうぞ、愛用ください。

ふるさと納税はお陰様で今年もご好評を頂き感謝申し上げます。一枚一枚お作りしていますので、少しでもお早めにお届けできますように勤めておりますが、もし可能でしたら年末にかかる前にご用命頂きますと幸いです。

## 【東日本大震災被災者支援の寄附】

2012年から毎年お届けしている東日本大震災の被災者への寄附。  
8月4日、北上市役所を訪れ、高橋市長にお届けしました。今年度は40万円でした。合計230万円になりました。



(高橋北上市長に玉澤工場長と高橋がお届けしました)

ふるさと納税一件ごと、またカシミア天使の葉一枚売上ごとに100円を寄附することになっています。沿岸部等から北上市に避難しておられる被災者の方に、寒さの厳しい冬の灯油代の一部として活用していただいております。

カシミア天使の葉をミュージアムショップなどで販売していただきました。美術館様、文学館様、本屋様。そして個人としてご寄附を頂いた方もいらっしゃいます。心からお礼を申し上げます。

## 【岩手経済研究所】

月刊・岩手経済研究の10月号、経営サロンに寄稿させて頂きました。



## 【初対面の第一印象】

人は見た目で判断する。ファッションはメッセージ



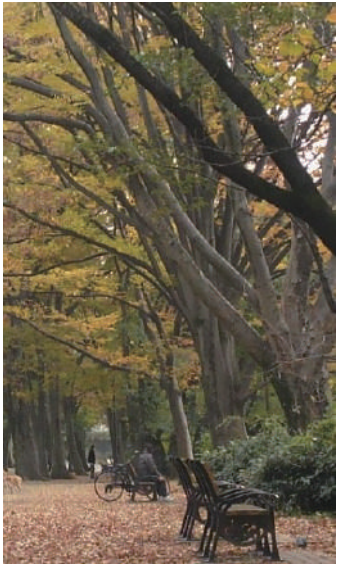
よく、『人は外見じゃないよ、中身だよ』と言いますね。私もそう思います。でも初対面の時は相手を知らないので外見で想像するしかありませんね。

メンブレンの法則というのがありますが、アメリカの心理学者のアルバート・メラビンが1971年に発表したのですが、相手を判断する時、身だしなみやしぐさ、表情など見た目などの要素が55%、声の質やイントネーションなどが38%、なんと言葉や内容などは7%しかないそうです。結構シロクナデータですが一方ファッションがいかに大事かということを再認識させるデータです。

もう一つ、初対面で相手の身だしなみを判断する時間は2秒とも5秒とも言われています。というところは違った瞬間の印象がインプットされてしまうということなんです。

『あつ、良いセンスの人』とか、『オオツ、ハデな人！』なんて。逆にその一瞬でインプットされたデータを払拭するには2年もかかるそうです。

最初に会った時、あの人はこんなファッションだったというイメージが出来上がってしまうとその後少々違って、今日は違ってたけどあの人はこうだった。となかなか最初のイメージが取れないそうです。



## 【青山・表参道界隈】

### 青山の古地図散歩

江戸の昔を垣間見る楽しみ

ここ南青山で起業してほぼ30年。その前旅行屋の時に紀ノ國屋の裏で小さな海外旅行の会社を立ち上げたので、50年近く青山と関わりあっています。歴史が好きなのでこの青山の昔に興味があります。そんな時に江戸時代の古地図で、江戸切絵図の「東都青山の図」を眺めるのが楽しみです。

江戸時代と現在では道路や町割りが変わり位置を把握するのがちょっと難しいですが、その際に目標になるのが神社やお寺と大名屋敷です。特に大きな神社仏閣は絵が描いてあり位置も現在の位置とそんなに変わらないので目印になります。

東都青山の図では表参道の横にある善光寺と、骨董通りの突き当りの長谷寺(ちようこくじ)と、今は暗渠になりキャットストリートになっている渋谷川がポイントです。

表参道の交差点の角にある交番の後ろの右奥が現在工事中で見通しが良くなっていて、ここから大きな屋根のお寺が見えます。

気づかない人が多いと思うのですが、ここが善光寺というお寺です。そう、あの『牛に引かれて善光寺参り』の長野善光寺の別院です。善光寺は日本中に沢山あるそうですが、この善光寺は三代將軍の家光の命でここに移って来たそうですから、約400年も前からここにあるようです。

絵地図の善光寺はとっても広い境内のようですが、現在の境内はそんなに広くはありません。しかし、今も山門の両脇には迫力のある仁王像があり、本堂

は二層の入母屋根が立派なお寺です。境内には何本かの桜があり春には都会の中で桜を愛でられる貴重な処です。



善光寺の周りは武家屋敷と大名屋敷ですが正面は大道(青山通り)からの門前町があったようです。当時の地図では、通りから門までに2件の武家屋敷があるのでそこそこの距離があるようです。1964年の東京オリンピックの時に青山通の拡張工事で門前町が削られたよう、今では青山通からすぐ近くに門が見えます。

善光寺の後ろは松平安芸守の下屋敷とあります。広島42万石の浅野本家の下屋敷は、善光寺から昔隠田と呼ばれていた原宿のキャットストリートのある渋谷川辺りまでの広大な敷地です。現代の地図で見るとどれだけの広さがあるのだろうかと思います。

ファッションの街・青山表参道にお寺さんとはあまりピンとこない取り合わせですが、長年ここで過ごしている者にとって、善光寺の静かな空間はとっても貴重です。表参道から迷い込んだような外国人が興味深そうに写真を撮っている姿を見るとなんだか楽しくなります。

## カシミア100%

### ポロ衿セーター

1212-1396 ¥68,200(税込)

衿はやや立体的になっており、上質な素材が引き立つシンプルなデザイン。年齢や流行に左右されず飽きのこないベーシックさを大切に、汎用性の高いモデルです。洗う度心地良い風合いへと成長する、カシミアの肌触りをお楽しみください。



## カシミア100%

### 天竺編レッグウォーマー

1312-3329 ¥12,100(税込)

最高等級カシミア100%の糸をふんわり編んだ、ふわふわ肌触りのレッグウォーマー。蒸れにくく、お風呂上がりの特に冷える時でも心地よく優しく温めてくれます。



## カシミア100%

### ケープストール

1312-3333 ¥82,500(税込)

ストールとケープ両方の機能を合わせた羽織ってもとても軽く、暖かいケープストール。畳んで持ち運べて室内でも、外出先でも気軽にお使いいただけます。カシミアならではのしなやかさと、ドレープの美しさが楽しめます。





カシミアとニットの話 \* (六十七)

カシミアはなぜあつたかいの？

暖かさの秘密は空気にあります

カシミアの魅力はなんと言ってもあの暖かくふんわりとした柔らかさと軽さですね。なぜカシミアはあんなにふんわりと柔らかく暖かいのでしょうか？

ちよつと堅い話で恐縮ですが、暖かさを保つには外の冷たい空気が我々の肌の熱を奪うのを防ぐことと、自分の体温を逃がさないことです。その壁の役目をするのが、我々の着ている衣服なんです。

この衣服は外気からの熱を遮断したり肌が傷つくのを防ぐのは当然ですが、動きやすいとか、軽いとか、適度に熱を交換するとか、色んな機能が要求されます。その総合評価が『着心地が良い』『あつたこと』でしょうね。

その壁(衣服)の中心で大きな働きをするのが実は『空気』なんです。

空気が動く(風のよう)に肌の揮発を促し寒く感じるんですが、動かない空気は断熱効果が高いんです。これを熱伝導が悪いと言います。

例えばローソクの火に接した鉄の火箸(火箸は鉄だよなあ)はずが熱くなって長さが三センチあつても握っている手が熱くありません。

これはローソクの炎の熱が火箸という鉄を通じて熱が伝導してきたからですが、火箸が無く手がローソクの炎から三センチも離れていればちつとも熱くなりません。我々には何にも見えませんが、本当は炎と手の間には空気があるんです。この空気の熱伝導が悪いので熱さが伝わりにくいんです。

『あつたかい』と感ずるには衣服に如何に熱伝導率の低い空気を沢山蓄えるかが一番の課題です。

衣服の殆どが糸から作られますね(当たり前か)。その糸の原料は植物の綿や麻、動物の毛、合成繊維などいろいろな素材が使われています。それぞれに特徴があり用途によって使い分けされていますが、その糸の原料は綿や毛を束ねて撚り合わせて作ったものです。

同じ太さの糸なら糸を作っている原料の綿や毛が細ければ細いほど沢山の空気を抱えることが出来ることはご理解いただけるでしょう。

一般的に動物の毛の中ではカシミアの毛が一番細いんです。(周りに比べて)しまいましたが

これが言いたかったんです) 細いということは当然軽い、柔らかい、繊細ということが理解できますね。カシミアの毛の太さは十五ミクロンから十七ミクロン。モヘアが三十から五十ミクロン。羊毛は二十ミクロン前後です。だから如何にカシミアが細いがお分かりでしょう。

一般にカシミアが一番細いと言いましたが厳密にはカシミアの毛は地球上で二番目に細いんです。

最も細い毛を持つ動物は南米アンデスの山岳地帯に住む『ビキユーナ』という動物。

ビキユーナは今ではワシントン条約で国際的に保護されている希少動物なのでこのビキユーナの毛は殆ど採れません。ちなみにビキユーナは七ミクロンから十八ミクロン。

この頃は極少量ですが、特別に許可を受けて収穫をして製品にしているものもあるようですが、いづれもビジネスにはなっていないのが現状で、一般に手に入るものではありません。



自書の中古本 1円也



2016年に「頑張れ！大風呂敷旅行屋」という題名の小説を上梓しました。未練のある旅行屋時代のことを書いたほほ自叙伝の小説です。

若者達で立ち上げた海外旅行の会社は、アマチュアの音楽家たちに海外コンサートに派遣するという、当時はどこもやってない企画でした。

苦しい立上りでしたがだんだんみんなの思うような仕事になり、日本でも特異な旅行屋として注目されました。

福井の女子高のマーチングバンドチームをオランダで開催された世界大会に派遣する話を基に、アフリカのナイジェリアで開催されるブラックアートフェスティバルのツアーを作る為に行ったナイジェリアでホテルアップやクーデターに遭遇した話を友人にしているときに、「小説にもないような話だから本にしたら！」とおだてられ、調子に乗って書きはじめました。

事業を始めても無いし尽くしで始める事業は大人から見たら無謀の塊で、若いからこそできる実行力ではじめは失敗ばかりだと思えます。お恥ずかしながら自分たちもそうだった。当時は苦しいことの連続だけどそれに立ち向かうことこそ貴重な経験でその後の人生の糧になってほしいと、「やってらんよ！」のつもりで書きました。

原稿を書いたのはほとんどは通勤電車の中です。狭い通勤電車内で、A4のコピー紙を4つに折り曲げて書くのですが、通勤電車の中は結構集中できるのです。小金井く吉祥寺の間は立って書き、吉祥寺く渋谷の井の頭線は始発に座れてかなり進みました。たまには字が揺れていて自分の書いた字が読めない時もあります。

会社と自分の名前が一緒なので、会社を検索すると私の本としてアマゾンでこの本が出てきます。「ああ、まだ売っているんだ！」と思えますが、中古の処を押しすと1円で売っています。「エッツ！俺の本は1円か？」と最初はショックでした。

ま、いらぬ人にとっては1円なんだろう、仕方ないかと納得します。本は1円なのに送料は250円とか300円です。郵便で届くので1200円が郵送料で1200円ほどの値段なんです。な、そんなところか？

作家でもない私の本ですから、1円ならお勧めしやすいです。「もしよかったらアマゾンの中古で1円で売っていますから読んでみてください！」と他人様にもお勧め安くなりました。「ニットの話」、「中小製造業・逆転のブランディング」も中古だと2〜3百円なのでブックオフへ行くより安いと思えます。

想い出のホテルを旅する(六十七)

元 旅行屋のお勧め パリ・フランス

アンバサダーホテル

今から45年前の1970年代、日本人にとって海外がまだ珍しかった頃、20歳代でパリやロンドン、ミラノなどを訪れるファッション視察ツアー作って自分で添乗するという旅行屋をやっていました。

業界のことは全く知識がなく困っていた時に、フランスや現地のファッションの事情を教授して頂き大変お世話になったのが、今も現役デザイナーで活躍されている島田順子さんでした。

島田さんは1970年初期、単身フランスに渡り幾多の苦労を乗り越えて、当時は有名ブランドのチーフデザイナーとして活躍されていました。今のように情報や知識がない頃の島田さんの現地の情報は本場でありがたく貴重でした。

ファッション関係のお客様ですからお店をリサーチしたりサンプリングを購入することが大きな目的です。そのためにはシャンゼリーゼやサントノール通りのお店に行くのが便利だということで、オペラ座の近くのこのアンバサダーホテルに決めました。

世界で最も美しい街並みと言われるパリ。美しい堂々たる外観のアンバサダーホテルの建物。今はマリOTT系の豪華ホテルですが、当時はちよつと薄暗いヨーロッパの伝統的な建物で、アメリカンスタイルのホテルに慣れている日本人にとっては部屋の狭さが不満のようでした。

そんな時、ホテルを訪ねて来てくださった島田さんが、「パリもそうですけど、ヨーロッパの大半のホテルの部屋はアメリカンスタイルのホテルに比べるとちよつと暗くて狭いんですよ。このホテルはパリの中でもっとも良いクラスのホテルですよ」と言ってくださいました。世界を飛び回っていてパリ在住の長い島田さんの一言で「あ、そういうもんか？」と納得してもらい、本当に助かった！と感謝したことを思い出します。

また、島田さんから聞いた話には日本と外国の常識の違いで大きなショックを受けた話があります。

「日本は重厚長大の製造業などを評価し、ファッションや旅行業界などは水商売と、あまり評価しないのよね、でもフランスではファッション業界はとても評価されていて、大卒の優秀な人達がこぞって入って来て競争がありとってレベルが高いのよ。そして、あなたの旅行業界もフランスでは国を支える重要な産業なのよ！」と聞いて、へえー！と日本とフランスの違いに驚き、旅行の仕事にプライドを持てるようになった。40年が経ち、日本はやつとツーリズムの可能性に気づきインバウンドに力を入れましたね。

